



おおみなみ

笑顔あふれる 大南

～自分もよく、相手もよく、みんなもよく～



令和7年度
練馬区立大泉南小学校
校長 田村 亜紀子
令和7年 5月29日
Tel 03-3922-1371

「ふれあい（いじめ防止強化）月間」

校長 田村 亜紀子

5月24日（土）は、天候にも恵まれ、運動会を開催することができました。多くの保護者・地域の方々に
お越しいただき、子供たちの雄姿をご覧いただくことができました。どの学年も自分らしさを表現し、力いっ
ぱい走り抜け、全力で取り組みました。また、他の学年への惜しみない応援が、学校を一つにしていました。
6年生の児童代表の言葉からは、最上級生としての思いや覚悟、さらには、これからの学校生活にも生かして
いこうという意気込みが伝わり

ました。「最高の最後の運動会」にするために全力で取り組んだ6年生の姿は、見ていた他学年の児童の心に
しっかりと伝わりました。何より最上級生へのあこがれが、大南小を一段と成長させてくれます。この運動会
を経て、一層、よりよい学級や学校生活となることを期待しています。

毎年、6月・11月・2月は「ふれあい（いじめ防止強化）月間」です。「いじめ」は、相手の心や体を傷
付けることであり、その人の人権を損害することであり、あってはならない行為です。言葉では分かっている
も、いじめはなくなるのはなぜでしょうか。

毎年、同じことを書かせていただいておりますが、大切なことですので、あえて、今年も述べさせていただ
きます。「いじめの問題を考えるときに必要なのは『想像力』である」と。人の感じ方は、その人のこれまでの
経験や環境で、その度合いは異なるので、一律に『こちらが良い』とすることは、できません。その価値観
が育つまでに至ったプロセス（人生）があり、自分の考え（価値観）を相手に押し付けることはできないので
す。ですから、自分とは違う価値観についても、想像力を働かせて「理解」するかどうか大切なのです。理
解した上で、「納得」できるかどうかは、本人の感じ方なので、そこまで強制することはできません。ですが、
互いの状況を互いに理解し合うことは、いじめの問題に限らず、すべての対話に必要な一歩です。

いじめられた人は深く傷付き、つらい気持ちになってしまいます。その気持ちは、本人しか分かりません。
「私は、これくらいは平気だけど…」という人もいますが、それは、あなたの感じ方であり、本人の想いとは
異なることを理解することが大切です。「自分は大丈夫だけど、相手も大丈夫かな？」と想像してみましょう。
一緒に楽しんでいる友達が、相手は笑っていても、「本当に楽しんでいるのかな？」と想像してみましょう。
さらには、同じ教室や学年などの中で、「あれ、あの子、楽しそうかな？」と目を向けて想像してみましょう。
その「想像力」が働いたとき、その人に寄り添い、「自分はどうするか」を考えて行動してみましょう。

「いじめ」はあってはならないものです。悲しいことに、それでもいじめは起きてしまうことは現実として
あります。私たち大人も、子供たち同士も、いじめをしない・させない・見過ごさないためにできることはた
くさんあります。相手の心に寄り添い、気付ける人たちがあふれば、きっと、「いじめ」という言葉そのも

練馬区教育委員会では、5月を「性暴力等防止強化月間」と位置付け、練馬区の子供たちが安心して学校
生活を送ることができるよう、全ての教職員に対して性暴力等の根絶に向けた取組を進めています。本校で
は、先日、教職員を対象に研修を行いました。また、人権を基盤とした教育プログラムの一環として、各学
級で授業を行いました。ぜひ、ご家庭でお子さんに話を聞いてみてください。

6月の生活目標 言葉づかいに気を付けよう